

中高一貫教育校 施設整備に係る説明会録

日 時：平成 23 年 12 月 15 日（木） 18 時 00 分～19 時 00 分

場 所：北海道札幌開成高等学校 志学館 2 階

出席者：地域住民、保護者等	～	16 名
開成高等学校関係者	～	4 名
札幌市教育委員会	～	9 名
基本計画委託者	～	2 名

司 会：札幌市教育委員会生涯学習部計画課計画係長

1 あいさつ

～ 札幌市教育委員会生涯学習部計画課長 山田 篤身

皆様、本日はお忙しい中、この中高一貫教育校の施設整備に関する説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は札幌市教育委員会の計画課長をしております山田と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。私から御挨拶をかねまして、この説明会の趣旨につきまして簡単に御説明申し上げます。

現在の札幌市立の小中学校は合計 305 校、高等学校は 8 校ございますが、札幌市の人口膨張期であります、昭和 40 年代から 50 年代前半にかけて建築された学校につきまして老朽化が目につくようになり、この開成高校につきましては屋内運動場、いわゆる体育館は比較的新しいですけれども、校舎のほうにつきましては昭和 38 年から昭和 52 年にかけて建築されておりまして、古いものは約 50 年近く経ち、老朽化がかなり進んでいます。

また、この時期に建築された建物は、いわゆる旧耐震基準に基づいております。こうした建物の全てがあるいは、今すぐに危険だと、こういうことではございませんが、例えば、東日本大震災のような震度 6 強、震度 7 といった大きな地震までは想定されておりません。このような中、札幌市は「中高一貫教育校基本構想」を策定いたしまして、この開成高校を中高一貫教育校に発展的に改編することに

いたしております。

そこで、老朽化の解消と耐震化の確保を図ることを目的といたしまして、開成高校を改築し中高一貫教育校の校舎として整備することにいたしましたのでございます。

中高一貫校の整備につきましては、教職員の方からなるチームのほかPT会の方あるいは同窓会の皆様、あるいは町内会の代表の方にも様々な意見をいただきながら進めてまいったところでございます。

また、学校施設は児童生徒の学びの場でございますけれども、地域の皆様にとっても最も身近な公共施設のひとつでございます。そのため、学校の関係の方ばかりでなく、地域の皆様にも御説明する機会をいただいたところでございます。

この後、私どもの各担当のほうから中高一貫教育校の基本的な考え方や新しい校舎の位置などにつきまして御説明をする予定でございますけれども、併せて質疑応答の時間も設けてございます。

どうぞ、忌憚ない御意見をお寄せいただき、反映できるものは反映していくということで、新しい学校の姿を検討してまいりたいと考えているところでございます。

私からの説明は以上でございますけれども、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 中高一貫教育校の基本的な考え方について【映像資料1】

～ 札幌市教育委員会学校教育部企画担当課 企画担当係長 村上 玄光

札幌市教育委員会企画担当係長の村上と申します。

私のほうから最初に札幌市中高一貫教育校の設置の基本的な概要と、それから今回、校舎の改築を行うわけですけれども、基本的な考え方、コンセプトといったところを、御説明させていただきます。スライドを使いまして説明させていただきますと思います。

まず、札幌市で今回設置することといたしました中高一貫教育校ですけれども、今年の3月に、「札幌市中高一貫教育校設置基本構想」というものを取りまとめまして設置することを決定させていただきました。その概要について御説明をさ

せていただきます。

まず、今回設置いたします中高一貫教育校につきましては中等教育学校という設置形態をとることとしております。中高一貫教育校の形態には三つございまして、この中等教育学校と併設型あるいは連携型というような形がございます。今回、中高一貫教育校の中でこの中等教育学校を選択したといいますのは中高一貫教育には、高校入試がない6年間という時間を有効に使いまして、特色ある教育ができるという最大のメリットがございます。そしてこの6年間一貫した学年構成により取組むことが、一番中高一貫教育の特徴を生かせるのではないかとということで、中等教育学校という中学校でも高校でもない新しい学校形態をとることにいたしました。従いまして、高校段階からの入学というのにはございません。

次に、学校の規模ですけれども、1学年4学級で、6学年合計は24学級ということで、今の開成高校と結果的には同じ規模ということになります。

それから、通学区域ですけれども、これは札幌市内全域ということにしております。地下鉄からも比較的近い立地ということもありまして、市内全域から通えるという形にしております。逆に言いますと市外から通っていただくということにはできないということになります。

開校時期ですけれども、平成27年度つまり平成27年4月、2015年の4月に開校ということにしています。

それから最後に入学者の決定、これをどう行うかということなんですけれども、中等教育学校の入学者決定、中学校1年生段階をどう迎えるかということになるわけですが、公立の中等教育学校につきましては法令の定めによりまして学力検査というものができないという決まりがございます。従いまして、ここにありません適性検査、作文、面接、調査書、抽選、こういった手法を適切に組み合わせて実施するというようにしております。具体的にどういう手法を組み合わせるかににつきましては来年度平成24年度に方針を定めたいと考えておりますので、決まりましたら、改めて御説明の機会を設けるようにしたいと考えております。

続きまして、移行期間の取り扱いなんですけれども、平成27年度開校というお話をいたしました、開校から3年間につきましては高校段階からの入学枠というものを設定しております。

従いまして、平成 27 年度開校時につきましては新しい中等教育学校の 1 年生と中等教育学校の 4 年、その二つが中等教育学校の新たに入ってくる新入生ということになります。そこに開成高校の 2 年生と 3 年生が 8 クラスずつ残っておりまして、合わせて 24 学級という構成になります。

同じように平成 28 年度になりますと、新たに中等教育学校の 1 年生と 4 年生段階の編入を迎えまして、開成高校の 3 年生が残っているという形で、合わせて 24 学級と、こういう形で移行期間の取り扱いを進めてまいります。

平成 29 年度には、この年まで 4 年生の転入を認めることにしておりまして、この段階で全て中等教育学校の生徒という形になります。

続きまして、今回開成高校の校舎を改築いたしまして、新たに校舎の整備とともに開校を迎えるということになるわけですが、校舎の建設にあたりまして基本的な考え方のところ、コンセプトのところを説明させていただきたいと思います。

今回、校舎の整備を考えるにあたりまして、まず中高一貫教育の特徴というのはどういったところにあるのだろうかを確認させていただきたいと思います。

大きく 3 点にまとめてあります。

といたしまして 6 年間を見通した柔軟な教育課程の体制を行うなどの 6 年間を通した学びの連続性、そういうことをあげております。

つまり、高校入試がなく中学校 1 年生段階から高校 3 年生段階まで 6 年間あるわけですけれども、この時間を有効につかって特色あるカリキュラムを組むことができる、これが中高一貫教育の最大の特徴と言っていいかと思います。

続けて 2 番目ですが、幅広い年齢集団で学習活動等ができるなどの、幅広い年齢集団による学びあいの効果というのが期待できます。

中学校 1 年生から高校 3 年生までが、一つの学校で同じように学んでいきますので、それぞれが相互に交流しあって刺激を受けるということにより、学びあいの効果というものも非常に期待できるというのが大きな特徴となっております。

次に 6 年間を通して生徒を支援することができる、6 年間にわたる見守りという効果があります。こういった特色ある学習活動というのを、6 年間一貫した体制で見守って指導していくことができるというのも中高一貫教育の大きな特徴でございます。

こういった点を踏まえまして、今回校舎建設にあたって基本的な観点というのを三つまとめております。

ひとつには教科の専門性をいかす学習環境の整備。

6年間の特色あるカリキュラム、これを生かすには、それぞれの教科の専門性これをいかすような学習環境の整備が必要になります。

それから二点目といたしまして、異年齢集団が自然に触れ合う環境の創出。

学びあいの効果これを高めるためには、この異年齢集団、異なる学年がそれぞれ自然に交流していくような環境をつくりだすのが重要であるということです。

それから三点目としまして、6年間の見守りを実現するためには生徒と先生の距離感を縮める工夫、こういったところも施設を整備するうえでは重要であるという三点を基本的な観点ということでまとめております。

これを踏まえまして、今回札幌市では初めての取り組みということになりますが、教科教室型の校舎をというのを取り入れたいということを決めております。

教科教室型というのは何だろうかというお話しですけども、ここにありますように「教科ごとに専用の教室があり、生徒が時間割に合わせて各教科の教室に移動して授業を受ける学校運営方式」という説明がされております。

通常の学校、これまでの学校のイメージといいますのはホームルーム用の教室、何年何組というのを中心に一斉講義型の授業を行い、理科の実験があったり家庭科の授業があったりということがあれば特別教室に移動するという形態であり、これは特別教室型と言われているものです。

これに対しまして、今回教科教室型といいますのは時間割にあわせて生徒のほうが教科の専用の教室に移動して授業を受けるもので、大学のようなイメージに近くなってまいります。

こういった形式をとることによりまして、教科ごとにやはり指導形態もかわりますし、いわゆるこれまでの一斉講義型の授業だけではない、いろいろな授業形態が考えられますので、そういったことに対応できる教室の整備ができるという大きなメリットがありますし、生徒が時間割に合わせてそもそも移動していく学校になりますので、いわゆる学びあいの効果、生徒が交流をしていくという意味では、自然とそういった環境をつくりだせるというのが一つ大きなポイントにな

ります。

そのようなことで、教科教室型の校舎整備というのを今回取り入れることにしております。

具体的な校舎の配置のイメージですけれども、お手元の資料にもありますが、こんなイメージを持っています。これは平面図ではなく、あくまでもイメージです。必要な教室などを、まとまりを持って配置するというようなイメージです。

各ゾーンごとに確認しながら説明をさせていただきたいと思います。

まず教科のゾーンですけれども、教科教室型の一番のメリットは、この教科の教室の専門性を高めることができるということにあります。

ここにありますように、国語のゾーン、数学のゾーン、社会科のゾーン、英語のゾーンというように各教科ごとに講義室であったり、大講義室あるいは小人数に対応するようなゼミ室、それから教科の教材を先生が準備したり、資料や生徒の作品を展示したりというような教科センター、こういったものを組み合わせて教科ごとに一つのゾーンを形成していきます。

こういう形の配置をすることによって、教科ごとに、「ここに行ったらこの勉強をするんだ、ここに行ったら社会の勉強をするんだ」そういった環境を作ることができます。

そこには、生徒ラウンジというのを間に必ず配置をしております。生徒ラウンジに生徒の個人の私物などを保管する生徒ロッカーを配置していきます。ですから、生徒の私物は、その生徒ラウンジのロッカーに保管をして自己管理をしていくことになります。

生徒は基本的に時間割に合わせて各教科の教室に移動しながら授業を受けていくということになります。授業はそういう形になるわけですが、朝と帰りは必ずホームルームがありますし、クラス分けも当然あります。

また、中学校3年生までは給食もあるということになりますので、そういったことについては、今、講義室と書いてある40人が入ります普通教室と同じような大きさの教室なんですけれども、この講義室の一つをクラスに割り当てをして対応していく、ということを考えております。

それを学年ごとに、各教科のほうに割り当てて、例えば国語ゾーンは1年生と

いう形にしていく。つまり国語の、ここは教科のゾーンでもありながら1年生の学年はここに1組から4組が割り当てをされる、そういうつくりにしていくという形を考えております。

こうすることによりまして、教科の専門性を確保しながらも、生徒と先生向けの居場所というのもきちんと確保していくことを考えております。

教科の専門性と学年のまとまり、これを両立するようなつくりというようなこととなります。

続きまして理科のゾーンのような、実技、技術系のゾーンがあります。こういった教室も、一つのまとまりを持って導入していくということで考えております。

特に今回中高一貫校になるにあたりまして、開成高校のコズモサイエンス科では課題探究的な学習というのに非常に力を入れているわけですが、今後更に発展させていくという考え方があります。そうしますと、特に理科系の実験室などは、非常に充実した設備としたいというような考え方もありまして、こうすることによってそれが実現していけるかと考えております。

技術系も同じように、まとまりをもって配置をしていく。それぞれの中に同じようにラウンジといいますか、ここは展示の機能になるかと思いますが、理科であれば標本ですとか教材、本物をここに展示をしたりすることによって、理科の教科を学習するという雰囲気づくりができるわけですね。技術ですとかそういった教科になれば生徒の作品の展示ができるというつくりになっています。

それから、図書室ですとか講堂ですけれども、今回特に図書室につきましては先ほど言いました課題探究的な学習、これを行うためには実験観察した結果をさらに図書室などで調べて結果をまとめていくという作業が大変重要になります。

従いまして、図書室のスペースというのを課題探究の拠点というようなふうに考えておりまして、学校の中心的な場所に配置をしていきたいということを考えております。

まとめた結果というのは、いろんな場で発表していくということにも取り組みたいので、講堂、ここで例えば先輩の発表を1年生、2年生は聞くというようなことも想定されますし、大学から講師をよんで専門的な講義を受けるようなことも想定できますので、講堂にも少なくとも複数の学年が入る大きさのものが必要

になってくるだろうということを考えています。

それから、職員室等のお話しなのですが、今回中高一貫ということで中学校の先生と高校の先生が、それぞれ配置をされるということになります。

ですが、ひとつの学校として一体のものとして学校運営をしていくということが非常に大事ですので、職員室は一か所に全員が入るような職員室をつくっていくということにしております。生徒との距離間ということを考えますと、従来あるような一つの独立した部屋としての職員室ではなくてカウンターを用いるなど、いわゆる見通しのきいた、生徒との距離が縮められるような職員室のレイアウトを考えたいなと思っております。教育相談室ですとか保健室カウンセリング室も、職員室から比較的近いところに配置をしていきまして生徒の相談に速やかに応じられる、そういった体制を施設の面からもつくっていきたいということを考えております。

こういったかたちをとることによって、中高一体となった6年間の見守りといったことが実現できるのではないかと考えております。

以上、簡単に今回建設する校舎のコンセプトについて説明をさせていただきました。このような考え方をもちまして、中高一貫教育の特徴を最大限にいかすような学校づくりというのに、これから取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願いたします。私からの説明は以上でございます。

3 校舎の配置計画について【映像資料2】

～ 札幌市教育委員会生涯学習部計画課 施設整備係 竹嶋 義則

教育委員会計画課の竹嶋と申します。よろしくお願いたします。

私のほうからは、先ほど村上のほうから説明ありました中高一貫の基本的なコンセプトを基にですね、どのような校舎をつくっていけばよいか、ということを検討しておりまして、今日は校舎の配置が決まりましたので、それを報告させていただきたいと思っております。

お手元の資料はA3のカラーを見ながらお聞きいただければと思います。

まず、開成高校の敷地の周辺ということで、開成高校は市街地中心部から約3.5キロの東部に位置しております。

隣接しているのは南側に開成小学校、東側に伏古川、西側には苗穂丘珠通りといったような幹線道路に接しています。北西部には地下鉄元町駅が位置しておりまして、比較的交通の利便性が高いところになっています。

このような考えから、新校舎の配置基本的な考え方で、先ほど説明がありました中高一貫を最大活かせる施設をつくりましょうということで、学習環境の充実、校舎の平面、ゾーニングと書いてありますが、校舎平面、あとグラウンドの規模を現状以上確保したい、また敷地周辺に入るとということで日影については、校地内または道路面もおさめて環境の変化を極力与えない、周辺に与えないと考えております。

また、体育館は平成3年に改築しておりますのでこれは既存の建物を利用するという事で考えております。

順番が前後して申し訳ないのですが、現況の建物の配置がこのようになっております。校舎棟は昭和38年に建設、以降4回の増築で今の形に至っております。南側には武道場鉄骨造平屋建て昭和47年に建設されています。屋内運動場は地上3階建てになっています。

ということで、校舎の位置を検討していくわけですが、屋内運動場を残すことから、校舎の配置は場所が決まってくるということで、これは一応検討案として載せています。

A案というのは仮設校舎を建てずに校舎北側、今のテニスコートの位置に校舎を建てるという案です。これは仮設校舎ないし、整備の負担軽減になります。また敷地の真ん中に建てるわけですから日影の影響というのはありません。グラウンドについても現状維持の大きさを確保、ただしテニスコートの位置に建てるわけですからテニスコートは敷地内で移動をすることになります。校舎の配置によっては中廊下型、今の開成高校と同じような校舎の形状になってしまうということで、校舎の平面のバリエーションが少ない、また建てられる敷地というかスペースが限られているので5階建てもしくは6階建てと、高層化になる懸念があります。

校舎配置B案は、今の野球場の位置に校舎を建てる案です。これにおいても仮設校舎なしで建設をすることが可能でできます。また周辺に対しても圧迫感を与えないということで、逆にこちらグラウンドに建てることによって、建築できる範囲が大きくなりますので低層化3階建てといったようなこともでき、日影の影響がないと思っています。グラウンドは配置がまるまる変わってしまうのですが、現状以上の大きさを確保することができます。校舎の配置においては中庭の回廊型の校舎にすることができるので、校舎の平面バリエーションが多いと、また解放的な空間構成ができると考えております。

C案というのが、今と同じ位置に建てるという案です。グラウンドに仮設校舎を建てて既存校舎を解体してそこに新しい校舎を建てるという案です。これまで御説明いたしましたように、仮設校舎があるので、引っ越したとか授業の変化で負担が大きいと考えております。同じ位置に建てるわけですから、周辺に対しては環境の変化はないということになります。グラウンドの大きさに関しては、同じ面積が確保できますが、A案B案に比べて大きくはなりません。校舎の形におきましても、A案と同様に建てられる範囲というのが限られるので、校舎平面のバリエーションは少ないかなと思っています。

校舎の位置を、この3案を検討しました。

さきほど御説明ありました教科教室型にするということで、これを活かした校舎配置、またグラウンドも同じ規模以上のものを確保し、日影圧迫感を軽減する、生徒の負担軽減で仮設校舎がいるのかいないのか、そういった点を検討した結果、お手元にある敷地西側に配置した案、仮設校舎なしという案に決定いたしました。

校舎の位置が変わるわけですから、当然日影も検討しております。

これは冬至、一番影が長くなる日の日影を時間ごとに表した図です。

9時から15時の間の影となっております。これが9時、10時、11時、12時、13時、14時、15時、こういった影になり、それを冬至下日影と言っているのですが、どれだけ連続して影を周辺に落とすかには法的に規制があります。

建築基準法ですけれども、これが2.5時間連続して影を落ちるということです。

青い部分が4時間連続して影になるのですけれども、この2.5時間、4時間に

おいても自分学校の敷地内もしくは道路内におさめることができます。

まだ、具体的に平面というのは検討中ですが、具体的な各階平面イメージということで、今考えた3階建てで考えておりました、ここが玄関になります。

ここから入って行って講義室に入っております。先ほど言いましたが、職員室だとかそういう管理部門というのをまとめて配置しております。

2階は日当たりのよい東側に講義室を持って行って、西側に特別教室を持ってきております。さきほど話しました図書室というのは、探求の建物の中心的な役割を果たしますので、これを2階3階にもって行って利用頻度を高めたいと考えております。

校舎以外に講堂と格技場も新たに建て替えをするので、この位置に建てて体育館との連携も図っていきたいと思っております。

事業スケジュールについて、今年基本計画を行っております。

来年度24年の5月から3月にかけて実施設計や地質調査というのを行います。

実際に工事が入るのは、平成25年6月から26年7月、1年かけて工事を行って26年の夏休みには完成し、新校舎に引っ越しを行いたいと思っております。

引っ越し完了後に8月から2月にかけて、旧校舎の解体テニスコート及び野球場の整備を行います。

最後に27年5月から渡り廊下、外構、サッカー及び陸上競技場の整備を行っていきます。

平成25年6月までは工事は行わず、現状のかたちになります。25年6月から26年7月までは、既存の校舎をいかしたまま新校舎を建設します。その際においても、陸上競技場テニスコート二面程度は使えるようにしたいと思います。工事では、具体的になっておりませんが、イメージとして仮囲いをして通りながら工事車両と生活路線の分離を図っていきたいと思っております。

8月の夏休み中に引っ越しをし、その後、既存校舎を解体します。

仮設の渡り廊下を設置し、屋内運動場に行き来できるようにすると思っておりますが、さきほど申し上げたとおり、屋内運動場を残すと、同じ位置に接続しなければならないので、仮設の渡り廊下をつくって、校舎と屋内運動場は行き来できるようにすると思っております。

北側にテニスコートと野球グラウンド、工事を行っていきます。

最後に 27 年 4 月に開校する予定だという話がありましたけれども、開校後、渡り廊下の建設、駐輪場、外構整備となっております。

残ったサッカーグラウンドも、この 28 年 1 月にかけて工事を行っていきいたいなと思っております。

最後になりますが今後のスケジュールということで、さきほど平面計画の具体的なイメージということで述べさせていただきましたが、平面計画が決まり次第、再度皆様にお示しをしたいなと思っております。

また、工事が始まる前は、工事説明会を開いて、工事車両や作業時間について説明を行っていきいたいと思っております。

駆け足で説明いたしました私の方からは、これで終わらせたいと思います。ありがとうございます。

4 校舎の配置に係るご意見について

～ 札幌市教育委員会生涯学習部計画課 計画係長 大木 敬治

今の説明等でもございましたが、計画課では、耐震補強や改築などについて、小・中学校、幼稚園含め整備を行う部署になります。

その中で、改築を行う際には、先ほどの説明でもありましたとおり、地域、町内の代表の方、PTAの皆さんですとか同窓会の皆さんとか、そういう代表の方と協議をしまして、その後、町内会の回覧を使いまして、地域の皆さんに御説明させていただき、地域の皆さんから御意見をいただくというような流れで改築を進めさせていただいております。

今回は中高一貫ということで、札幌市で初めての学校ですが、ここにつきましても同じような方法でやりたいということで説明させていただいております。

今回初めての学校ということで、中学校、高校の先生、それと教育委員会が入るプロジェクトチームを立ち上げまして、ソフト面ハード面含めまして、どのようなものかいいかというのを、何回か打ち合わせをやってきてございます。

その中で、先ほどの校舎の配置計画につきましても、一度は同窓会の代表の方、PT会代表の方、それと町内会の会長等に御意見等を伺いまして、了承を得てきているところでございます。

今回、皆様にも御説明させていただく機会を設けさせていただいたところでございます。

改築するときの、前提条件というのがありまして、開成高校につきましても、先ほどの説明でもありましたとおり、体育館がまだ新しいということで、校舎のみの改築を考えてございます。

それと、グラウンドはどこの学校もそうですが、今よりは広くしたいというのが要望にもなっております。

あと、地域町内会の皆様方につきましては、日影の関係が一番大きな問題で、いつも御意見いただいておりますので、これにつきましては敷地内におさめるといことで、皆さんの住宅にはかからないようにやっていきたいと考えてございます。

そのような中で、先ほどの説明で当初は3案程度ございまして、いろいろな御意見等いただきながら絞り込み、今回皆様に御提示しているのが、このA3判のカラーの図面で提案させていただいているところでございます。

今後、各階の平面も3月にまた説明させていただきたいと思っておりますが、これにつきましても、例えば1階には管理諸室ということで、職員室ですとか校長室、事務室等を、防犯上の面で1階にもっていききたいなど考えております。

ほかには、今、改築する際は、環境に配慮した施設というようなこともございまして、建物は、建物内の温度が一定の温度が保てるという外断熱工法、窓枠にしましても樹脂による断熱サッシにしてございまして、省エネタイプの建物になるかなと考えてございます。

そのほか、環境ということでは、CO₂の排出量の削減ということで、暖房につきましても、ペレットボイラーを導入したいなと思っております。その他に太陽光発電を設置いたしまして、学校の電力の一部にしたいと思っております。

ほかには、グラウンドにつきましては、芝生の面を多く設けていきたいと考えてございます。

今年の東北の地震等ございました関係で、学校は避難所に指定されていますので、備蓄庫等を設置したり、太陽光発電を、停電時にも一部電力として使用できるようにしたり、災害時の電話回線もNTTで設置したいというような要請もあり、そういう防災に関するもの、改築でやっていきたいと考えているところでございます。

それで今後の予定でございますが、さきほどお配りしております次第の裏、あるいはA3判の最後に工期を載せていますが、来年の3月までに、基本計画をつくりたいと思っております、皆様方の御意見を伺いたいと思っております。

それで来年1年間、実施設計で詳しい設計をいたしまして、再来年から工事に着手したいと考えているところでございます。

次第の4番目になりますが、校舎の配置に係るご意見についてということですが、次第の裏の所の下の囲みに書いてあるとおり、施設、今回はまだ配置までしか皆さんに御提示しておりません。3階建てを予定しております、各階にどんな教室が入るのかというのは、もう一つのほうの最初の資料にございます各ゾーン、理科ゾーンなどが、各階のどの位置に入ってくるというようなイメージで、説明させていただいているところでございます。こういうようなことを、まず皆様のご意見いただきたいと思っております。

そこでできましたら、ここで書いてありますとおり、郵送あるいは御自宅にある方はFAX等で開成高校に御意見いただければと思っております。

締め切りは年明けの1月20日までに、書面でお願いしたいと思っております。

それと今回は中高一貫校ということで、札幌市内どなたでも入ってこれる、今の高校と同じ状況でございますので、教育委員会のホームページ、インターネットでも、今回のこの資料を来週20日、火曜日に掲載したいと思っております。

ホームページの中でも同じ1月20日まで市内の方に御意見をいただこうと思っておりますので、学校の方にいただいても結構ですし、ホームページからの御意見でも、どちらでも結構ですので、御意見等ございましたらいただきたいと思っております。

そのあとになりますが、御意見をまとめまして、反映できる意見は反映していきたいと思っております。

ただ、予算の問題ですとか、建築基準法ですとか、いろいろな法的問題等ございますので、いただいた意見を全て反映できるかは、わからないところでございますが、できる範囲で反映していきたいと思っているところでございます。

その意見を反映したものを、またPT会の代表の方、同窓会の代表の方、後援会、地域の町内会の代表の方に、もう一度御説明をしたいと思っております。

その他に、先ほどのプロジェクトの中でも検討しながら、皆さんの意見を反映していきたいと思っております。

それで年明け3月に、また今回と同じように町内会の皆様には回覧を利用させていただきまして、今度は各階にどのような教室が入ってくるかというような、そういう説明会をさせていただきたいと考えてございます。

意見につきましては、こういう形でお寄せいただければと思っております。

5 質疑応答

【質問】・・・（参加者）

あの近くに住んでいる者で、40年来、高校の様子を見てきたので、いろいろあるのですけれども、今一応環境アセスメントというんですか、環境という面からみて、グラウンドがちょっと変りましたよね。変形しましたよね。今までプレイグラウンドだったところに校舎ができて。

まずひとつは、最近、特に木をずっと植えましたよね、ポプラね。あの葉っぱはですね、強烈に落ちて、それがどこがやるか全然わかりませんけれども、始末が全くやっていませんね、はっきりいってね。こんなことを学校に言うのもどうかと思うんだけど、やはりその奉仕とかそういうことでね、子どもたちを動かすという事はできなかったのかな、なんてちらっと思ったり。

住民も悪いところはありますよ、雪をね、やっちゃいけないというところに投げたりですね、いろいろあるのですけれども、最近見るとポプラをどんどん切ってますよね、これは葉っぱの関係もあるだろうし、風が吹いた時には非常に風の音が周りの住宅に不都合であるとか、いろいろあるかと思っておりますけれども。

私はですね、木は木で一見すばらしいと思うんですが、ただメリットとデメリットがやっぱり出てくるわけで、何とかそのへんをですね。

例えばグラウンド、野球グラウンドが動きましたから、結構練習のとき大きい声を出したり、サッカーもそうだと思いますけれども、子どもたちの大きい声が元気でいいなという人もいるけれども、小さい子供がいてちょっと困るなという人もいろいろあると思いますので、その辺、音が出ないと言ったら変ですけども、なるべく地域住民に音ができるだけコントロールできるように、それが風だとかそういう落ち葉だとか、やはり木をずっとこの周りに植えるのかどうか、もっと木でなくて環境に素晴らしい何かそういったものがないだろうか。

緑がふんだんなそういうものがないか、差し当たって先ほど今御説明があったグラウンドは芝を最大限植えるということで、ちょっと安心したんですけども、それでもどの位地面が、土が出るのかと、風吹いてきた時に、木を植えないとしたならば、風で土埃が住宅のほうに流れてこないかとか、いろいろ考えられますのでそのへんやっぱり近くにいる住民としてはやはりちょっと気になったところなんですね。

教育そのものというんじゃなくて環境ということで、ひとつ考えておいていただければと思います。

それからもうひとつは、中高一貫教育の特徴は分かったのですけれども、これから具体的にどんどん出てくると思います。

ただ、子供をどうやって育てていくのかっていう、どんな子供につくるのかってこと、それはですね、今、大学教育との関係で結局統一テストをやりますよね。

例えば、ここで言われている柔軟な教育課程の変遷うんぬんとか、いろいろ言われているけれども、具体的にその統一テストに耐えられない教育をやっていくと結局はまた塾が増えたり、問題が出てきます。

私は中高一貫教育に全市から応募するわけですから、やはり中高一貫教育の子どもをどう育てるかということ、みんなにアピールすることによって、遠いところからでもここに来るんじゃないかなと思います。

それから、これはちょっと将来性も大学に行くには、「ちょっとあれだな」というのであれば、受けないだろうし、いろいろあると思うんです。

その辺が、ちょっと見えてこないということ、中高一貫教育でどういう子どもを育てるかによっては、大学だとか統一とかそういうことを抜きにしてですね、

自分の子どもはこういう環境の中で育てると、やはり異学年、異年齢集団との中で人間として非常にいい方向に育っていくなあというふうに思えば申し込んでくるだろうですね。

その辺がちょっと見えてこないのが、親としては勉強させてもらって、統一テストに耐えられる人間つくってくれるのかなとか、いろいろ希望を抱いたり、またせっかく中高一貫教育をするのに、そうかそれならなんとかちょっと気落ちしたりですとかいろいろあると思うのです。

その辺を、できたら近々明確にしていってもらえれば、親やじいちゃん、ばあちゃんとしてはいいかなと思います。

長くなりましたけれども、申し訳ございません。

【回答】・・・計画係長

1件目につきましては、私のほうから回答させていただきます。

緑化の関係でございますが、確かに工事が入った際には、どうしても工事の影響で邪魔になる木につきましては、移植あるいは伐採ということもありますので、全て今ある木が今ある位置にあるとは限らないと思います。

それと建てるときに、法的な関係で緑化率というのもございまして、例えば地域によって、敷地の20%緑化しなければならないとか、30%緑化しなくければならないとか、そういう規則もございまして、緑化はある程度していかなければならないということもございまして。

やはり緑は伐採しないというのが基本的な考えですが、それは工事の中でやむを得ない場合は、先ほど言った通り伐採する木も出てくるかと思っております。

それと砂ぼこりの問題もありましたが、芝にする事によって、解消できるかなと思っております。

学校の教育上、どうしても土の部分、例えば走ってタイム競うという競技もあるので、学校と協議します。例えば、ここのA3判の図面のグラウンド部分トラックで、トラックの丸い走るところ、それと直線の走るところ、ここを土にしてトラックの中とか周りは芝にしましょう、という学校は最近多いです。

それと、あと、ここは今のところ計画では真ん中にサッカーグラウンドを置こう

かという予定を考えていまして、ここも学校さんのほうでサッカーグラウンドは芝でいいというのであれば、ここも芝を貼れるのかなというふうには思っておりますが、学校と調整しながら、できるだけ芝にしていきたいというふうには思っております。

それと先ほど枯葉が落ちるとか、子供たちの声というのは、今回、学校の校長先生も副校長先生もおりますので、伝わったかなと思っております。

一件目に付きまして私のほうからは以上でございます。

【回答】・・・企画担当係長

新しいこの中高一貫校の目指すところと言いますか、どういう子どもを育てていくか具体的な形が見えないというようなお話で御意見いただきました。

まさにその通りでございます、この3月にまとめさせていただきました、基本構想というのがあるんですけども、この中で基本的な考え方、方向性だけは示させていただきましたが、まさに今この学校でどういう教育課程カリキュラムを組んでいくのかというところについては、プロジェクトなどで議論をしているところでございます。

こういったところをきちんと理解していただいて、やはりこの学校を進んで希望していただけるというのが一番望ましいことだと思います。

入学者決定方法にも繋がる話ですので、来年度そのあたりをはっきりさせまして、また改めて御説明の機会を設けたいということで考えております。

なお基本構想につきましてもホームページなどで見られるようにしておりますので、もし興味があってということであればお帰りに申し付けいただければお送りしたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかに質問等ございませんでしょうか。よろしいですか。質問等ございませんか。

(他の質問なし)

(閉会の挨拶)・・・開成高校校長

初代の校長は、昭和 37 年の 1 月にここに来てこの原野を見渡して、非常に困難じゃないかなあというふうに緊張したと記録に残っております。

それでも、北海道にその時一番モダンと言われる校舎ができました。

それから 50 年たって、今はちょっと中を歩いてきたときですね、寒かったんじゃないかと思えますけれども、風通しがとても良い学校なもんですから、冬はとても寒いんです。

でも頑張っここまできました。これから来年 50 周年を迎えてお祝いをします。

地域の方にも来ていただければ大変ありがたいと思っております。また新しい校舎ができますので、その次の 50 年に寄与するような校舎と、それからそこを卒業していく生徒が、また皆さんのお世話になって育っていく、皆さんで育てていただければ、とてもありがたいと思えます。

今日はどうも有難うございました。

(司会)

それでは本日は長時間にわたりましてご参加いただき誠にありがとうございました。以上で中高一貫教育校の終わらせていただきます。ありがとうございました。